

研究 主題	他者との関わりで自分を見つめ、考えを深める児童の育成 一道徳科「生命の尊重」領域における p4c を活用した探究的な学習デザインと、 児童の発達段階を踏まえた効果的なファシリテーション
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

第3学年道徳科学習指導案

指導月日 令和7年10月17日（金）

所属校名 山元町立坂元小学校

氏名 橋本 奎

1 主題名 受け継がれる命「D（19）生命の尊さ」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

生命の尊さを知り、生命を大切にしようとする態度を育てる。

(2) 教材名

「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね」（東京書籍 新編新しいどうとく3）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領（平成29年告示）「特別の教科 道徳」の内容「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「19 生命の尊さ」における第3学年及び第4学年「生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること」を受けて設定している。ここでいう生命は、連続性や有限性を有する生物的・身体的生命、さらには人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉えている。この内容項目は、主として人間の生命の尊さについて考えを深めることが中心ではあるが、生きているもの全ての生命の尊さも同様に大切に考えなければならない。生命の尊さを概念的な言葉で理解するとともに、生きることのすばらしさや生命の尊さについて自分との関わりを通して考え、生命を大切にしようとする心情や態度を育てることが必要である。家族や社会的な関わりの中での生命、自然の中での生命、更には生死や生き方に関わる生命の尊厳など、発達の段階を考慮しながら計画的・発展的に指導することで、様々な側面から生命の尊さについての考えを深めることが重要である。

道徳科の年間指導計画において、内容項目「生命の尊さ」は、第2単元、第13単元、第33単元で計3回扱うが、それぞれ内容項目に対するアプローチが異なっている。生命の尊さについては、遠い先代から受け継がれてきた生命の連続性、多くの人々に支えられている命のつながり、そして生死に関わる経験を通して一生懸命に生きることのすばらしさという3つの側面から、そのかけがえのなさを理解できるよう構成している。これら一連の学習において、3つの側面を相互に関連させながら、生命について多面的・多角的に考えを深められるよう指導に当たる。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態

この時期の児童は、現実性をもって死を理解できるようになり、日常的な生活経験や様々な学習の機会を通して、生命は唯一無二のものであることや、多くの人によって生命は支えられ、育てられていることを学んでいる。これまで、第2単元において生命の連続性、第13単元において多くの人々に支えられた命のつながりについて考え、生命を尊重するべき理由について道徳的価値の形成を図ってきた。特に、第2単元では生命の連続性として、数え切れないほどの先祖のつながりの中に自分がいることについて考えた。科学的な生命のつながりについて思いを深めたが、生命のつながりとは、何

も遺伝子的なつながりだけを指すものではないと考える。託された思いを背負って生きることも、人間ならではの生命のつながりの一つの形であると考え。そこでこの単元では、津波による大きな喪失経験を乗り越えた主人公の心情に共感させ、故人から贈られたランドセルを思いが宿る象徴として捉えることで、与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさを児童に実感させたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、東日本大震災で被災し、津波によって大切な祖父母を失った児童の作文である。地震があった日、「ぼく」は先生や姉、弟と一緒に体育館に避難し、父母に会えない不安に耐えながら一夜を過ごす。父母には翌日に会えて安心したものの、数日後、祖父母が津波によって亡くなったことを告げられる。祖父母を失った深い悲しみの中、祖父母に買ってもらったランドセルが目にとまり、祖父母がランドセルに込めた願いを想像することで、一生懸命に生きようという思いを持つ。親族を亡くした悲しみに暮れながらも、祖父母の思いを背負って前向きに生きようとする思いに共感させることができる教材である。本教材を通して、生命のつながりとは科学的なものだけではないことに気が付き、思いを背負いながら前向きに生きようとするという道徳的価値について考えを深めさせたい。

導入部分では、実物のランドセルを示し児童の関心を高め、教材文冒頭を聞かせることで物語の舞台を想起させながら教材文に没入させる。展開部分においては亡くなった祖父母と対面した場面と、祖父母から贈られたランドセルを見て前向きに生きようとする2つの場面を取り扱い、「ぼく」の心情に共感させることで、本主題である受け継がれる命について理解を促す。展開後段においては、p4cの形式で主題について具体的に問うたり、見解や解釈を尋ねたりすることで児童自身が主題について考えを巡らせることができるよう、批判的な発問区分を活用した対話を展開する。教材文や友達との対話を通して、道徳的価値について自分との関わりで捉えることができるよう指導する。

4 研究主題との関連

本研究では、第3学年と第5学年の児童を対象に授業実践を実施する。中学年と高学年の指導において、以下の2つの手立てを講じることで、目指す児童像の具現化を図る。

(1) 学年ごとの発達段階に応じたファシリテーションの工夫

道徳の指導における対話では、中学年に対して東京学芸大学教授 永田繁雄氏が提唱する4つの発問区分を活用する。登場人物の心情について考えさせる「共感的発問」、自分自身を登場人物に重ねて考えさせる「投影的発問」、行動の理由や背景について考えさせる「分析的発問」、登場人物の言動や主題について自分自身の考えを問う「批判的発問」を導入したファシリテーションを展開する。高学年では「〇〇とは何か」のように主題を深く掘り下げる発問や児童同士で問いを投げ掛ける活動を取り入れ、児童がより主体的に対話を進められるようファシリテーションを展開する。また、どの発達段階においても、対話の終盤には、新たに「自分に返す発問」を設定し、自分との関わりで主題について考える機会を設定する。

本主題においては、教材文に関わる共感的発問と分析的発問、自己との関わりにおいて考える段階では批判的発問ならびに自分に返す発問を活用し対話を構成する。共感的発問を通して、教材文を味わいながら登場人物の心情に自分を重ね合わせて価値理解を促し、分析的発問を投げ掛けることで教材文から得る価値の具体化を図る。その上で、批判的発問を通して価値の一般化を図り、対話の最後には自分に返す発問を問うことで、自己との関わりについて考えさせ、価値の内在化を目指す。

(2) p4cを活用した探究的な学習デザインの工夫

本研究において、p4cの手法は指導過程における「自分との関わりで考える」段階において活用する。教材文について話し合う時間とp4cの時間の割合を中学年では一対一、高学年では一対二の割合となるよう、発達段階によって段階的に構成する。本授業実践においては、教材文とp4cを一対一の割合で構成し対話を展開する。しかし、場の設定の変更など、展開の前段と後段を明確に分けることで、児童の集中が途切れることが懸念される。そこで本実践においては、中心発問についての話し合いから円座のまま対話を行うことで、後段のp4cの活用へと円滑に移行することをねらいとする。

5 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問（◎中心発問） ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点 ☆評価
導入 5分	<p>1 主題について関心を持つ。</p> <p>○教材文冒頭の2行を提示する。</p> <p>◆亡くなったのかな。</p> <p>◆家族だったのかな。</p> <p>◆どうして亡くなったのだろう。</p> <p>○実物のランドセルを示す。</p> <p>◆ボロボロのランドセルだなあ。</p> <p>◆学校の話なのかな。</p> <p>○このランドセルと亡くなった2人にはどんな関係があるでしょうか。</p> <p>◆ランドセルを買ってくれたのかな。</p> <p>○物語の舞台を紹介する。 (東日本大震災、女川町)</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 被災地で見つかったランドセルを示すことで想像を膨らませ、教材文の世界に関心を持たせる。 児童とのやり取りを通して教材文のあらすじを伝え、本時の学習のめあてである「思いを受け継ぐ」という視点を持つように促す。 中心発問から円座になって対話を行うため、座席の移動をしやすいよう、開始段階では机を円形に配置する。
展開 35分	<p>2 範読を聞いて出来事を確認し、受け継がれる命について考える。</p> <p>【共感的発問】</p> <p>○「ぼく」は亡くなった二人に会った時、どう思ったでしょうか。</p> <p>◆悲しい。</p> <p>◆もう会えないなんて寂しい。</p> <p>【共感的発問】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね。」には、どんな思いが込められているでしょうか。</p> </div> <p>◆これからも見守っていてね。</p> <p>◆おじいちゃん、おばあちゃんのみまで生きよ。</p> <p>3 めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>思いを受けつぐことについて考えよう。</p> </div> <p>4 対話を通して自己を見つめ、これからの生き方について考える。</p> <p>【分析的発問】</p> <p>○「思いを受け継ぐ」とは、何をすることなのだろうか。</p> <p>○これはおじいちゃん、おばあちゃんからお願いされたことなのだろうか。</p> <p>○「ぼく」はどんな思いを受け継いだのだろうか。</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 児童との対話を通じて、教材文の出来事と「ぼく」の気持ちを流れに沿って黒板に整理することで、「ぼく」の心情に対する共通理解を深める。 場面の様子を動作化させることで、心情に迫る一助とする。 中心発問をじっくり想像させるため、時間を取ってワークシートに考えを書かせる。 発言順を意図的に構築することで、思いを背負って前向きに生きようとする「ぼく」の心情に目を向けさせる。 本主題のキーワードとなる「思いを受け継ぐ」を印象的に板書に示す。 対話はp4cを踏襲した円座での形式で行う。 教材文への没入感を途切れさせないために、前段階の対話から連続してこの段階へと移行する。 中心発問のやり取りを分析的に問うことで、具体的な行動を加味した上で、主題について考えさせ

	<p>【批判的発問】</p> <p>○亡くなった人に対する「見ていてね」は、今、生きている家族に対する「見ていてね」と同じだろうか。</p> <p>○「思いを受け継ぐ」と「命を受け継ぐ」の違いは何だろうか。</p> <p>○でも、見ているか分からないから、気にしなくてもいいのではないだろうか。</p> <p>○「誰からも思いを受け継いでいない」という人はいるのだろうか。</p> <p>○思いを受け継ぐのは家族だけだろうか。</p> <p>【自分に返す発問】</p> <p>○あなたが「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね」と伝えたいのはどんな時ですか。</p> <p>○あなたは、どんな思いを受け継いでいると思いますか。</p> <p>○その思いを、これからどう生かしていきたいと思いますか。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前段階の対話の流れをくみ取りながら、手持ちの問い（いくつかの発問例）の中から問い返しを適切に選択し、ファシリテーションを行う。 ・ファシリテーションは、共感的発問、分析的発問、批判的発問、自分に返す発問の順を追って展開する。 ・児童が十分に自己を見つめることができるよう、考える時間を確保する。 ・対話の中で「思いを受け継いで生きること」に対する納得解が生まれる展開が予想される。終末での振り返りに活用できるよう、対話の中で印象強く残った言葉を対話後に板書する。
<p>終末5分</p>	<p>5 学習を振り返り、思いを受け継いで生きることについて考える。</p> <p>6 保護者からの手紙を読み、思いを受け継いで生きることについて考える。</p>	<p>個別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習（教材文、対話）を通して考えたことをワークシートに記入させ、学習を振り返らせる。 ☆生命の尊さや、与えられた生命を一生懸命に生きることの素晴らしさについて、自分との関わりの中で考えようとしていたか。【ワークシート】 ・「成長への願い」を込めた、保護者からの手紙を読ませることで、自分自身が多くの人々の思いや願いを受け継いでいるという実感を促し、これからの生き方について思いを深めさせる。 <p>一斉</p>

【評価】

生命の尊さや、与えられた生命を一生懸命に生きることの素晴らしさについて自分との関わりの中で考えようとしていたか。 (対話、ワークシート)

【板書計画】

思いを受けつぐ

なくなつた家族にむねをはれるように生きたい。
ぼくたちはたくさんの人たちの思いをせおつて生きている。

「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね。」
どんな思い
おじいちゃん、おばあちゃんの分まで生きてよ。

・かなしい。
・もう会えないなんてさびしい。

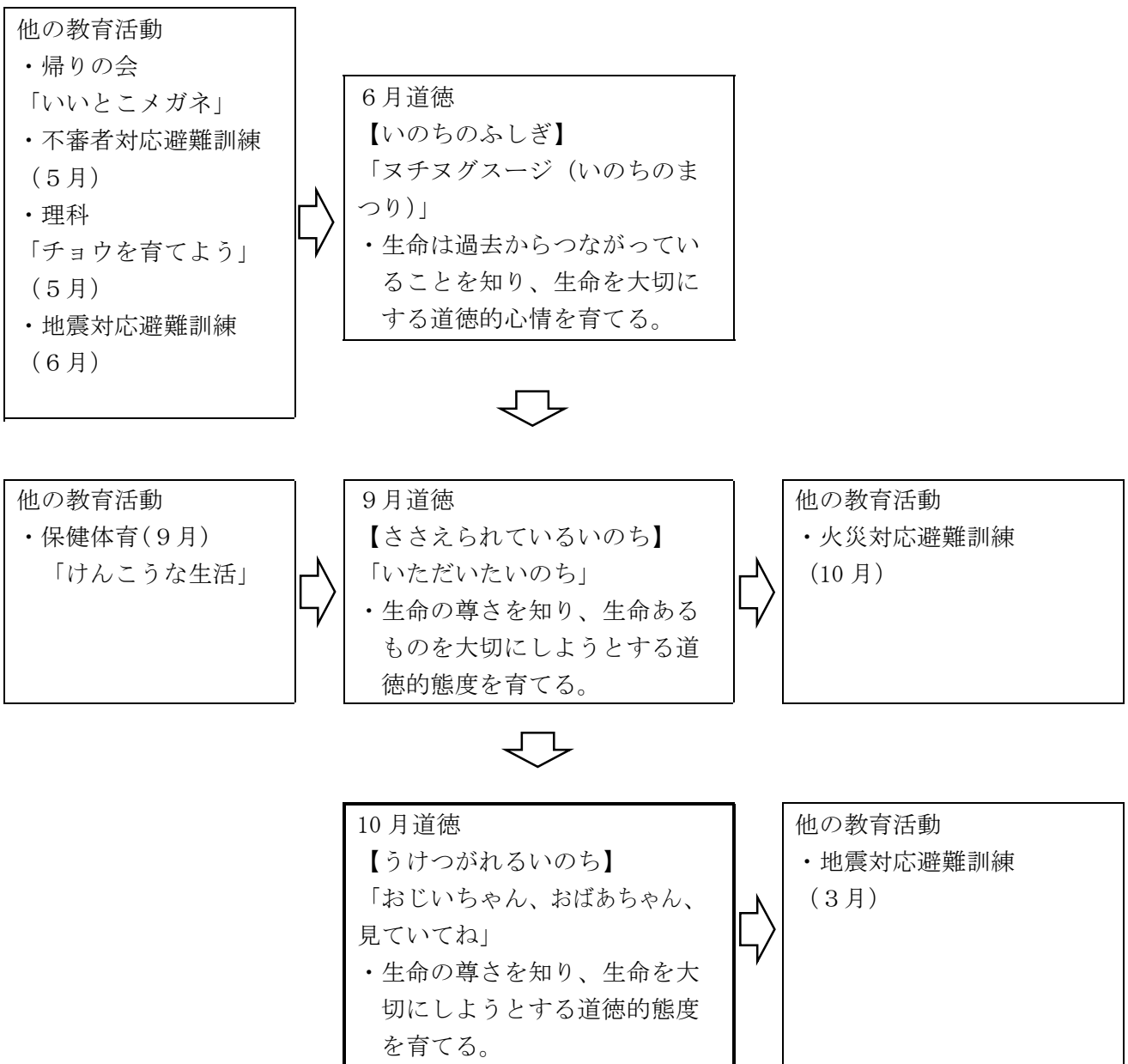
三月十一日
なくなつてしまった二人に会つて

おじいちゃん おばあちゃん
ランドセル
ぼく

④ 思いを受けつぐことについて考えよう。
毎朝、おじいちゃんとおばあちゃんの写真に手を合わせることを、これがぼくの一日のはじまり。

受けつがれる命
おじいちゃん、おばあちゃん
見ていてね

6 他の教育活動等との関連



7 補充・深化・統合の視点【補充】

児童は避難訓練や交通安全教室、動植物とのふれあいなどの日常的な生活経験から、生命の大切さについて理解し、生命を尊重するという価値を一般的感覚として身に付けている。一方で、希望を持って生きるなど、生命を尊重するという視点から自分自身の生き方について考える経験はそう多くなかったのではないかと考える。そこで、本単元の学習を通して、思いを背負いながら一生懸命に前向きに生きることについて思いを深めさせたい。

8 教材分析

あらすじ	気付かせたい考え	発問	予想される反応
おじいちゃんとおばあちゃんの紹介。			
津波のため、体育館に避難して、姉と弟と一晩過ごす。			
数日後、祖父母が亡くなったことを聞かされる。	親しい家族を亡くした喪失感。	ぼくは、亡くなった二人に会って、どう思ったのでしょうか。	・悲しい。 ・もう会えないなんて寂しい。
祖父母に買ってもらったランドセルを見つけ、前向きに生きようとする思いを持つ。	喪失感を乗り越え、故人の思いを背負って前向きに生きようとするぼくの思い。	「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね。」には、どんな思いが込められているのでしょうか。	・これからも見守っていてね。 ・おじいちゃん、おばあちゃんの分まで生きるよ。
	主題に関わるキーワードについての具体的な行動。	「思いを受け継ぐ」とは、何をすることなのだろうか。	・亡くなった人の願いを叶えること。 ・ぼくにしてほしいことをし続けること。

9 準備物

教師：紙板書、ワークシート、コミュニティボール、保護者からの手紙

児童：筆記用具

10 発問構成表

<p>発問構想表</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">多面的思考</p> <p>教材文や事実に重ねて考える</p>	
<p>共感的発問</p>	<p>分析的発問</p>
<p>○ぼくは亡くなった二人に会った時、どう思ったでしょうか。</p> <p>◎「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね。」には、どんな思いが込められているでしょうか。</p>	<p>○「思いを受け継ぐ」とは、何をすることなのだろうか。</p> <p>○これはおじいちゃん、おばあちゃんからお願いされたことなのだろうか。</p> <p>○ぼくは、どんな思いを受け継いだのだろうか。</p>
<p>投影的発問</p>	<p>批判的発問</p>
<p>※本題材（生命の尊重領域）においては、自分を投影させて考える発問の活用の難しさがあったため、割愛する。</p>	<p>○亡くなった人に対する「見ていてね。」は、家族に対する「見ていてね。」と同じでしょうか。</p> <p>○「思いを受け継ぐ」と「命を受け継ぐ」の違いは何だろうか。</p> <p>○でも、見ているか分からないから、気にしなくてもいいのではないか。</p> <p>○誰からも思いを受け継いでいない人っているのだろうか。</p> <p>○思いを受け継ぐのは家族だけだろうか。</p>
<p style="color: red; font-weight: bold;">物語的な思考</p> <p>教材文の登場人物を重ねて、主観的に考える</p>	
<p style="color: red; font-weight: bold;">多角的思考</p> <p>自分のこととして自由度を高く考える</p>	
<p style="color: red; font-weight: bold;">自分に返す発問</p>	
<p>○あなたが「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね。」と伝えたくなるのはどんな時ですか。</p> <p>○あなたはどんな思いを受け継いでいると思いますか。</p> <p>○その思いを、これからどう生かしていきたいと思えますか。</p>	
<p>教材文について、客観的に考える</p> <p style="color: green; font-weight: bold;">科学的な思考</p>	